



ホームページ <http://www.kochi-ms.ac.jp>  
メールアドレス [kms-info@kochi-u.ac.jp](mailto:kms-info@kochi-u.ac.jp)  
郵送先 〒783-8505 南国市岡豊町小蓮  
高知大学医学部・病院事務総務管理課総務グループ  
TEL 088-880-2221 (直通)

# うちの病院ここがすごい 蛍光膀胱鏡を用いた術中光力学診断



泌尿器科 井上 啓史

我々泌尿器科は、平成16年9月より国内で初めて、膀胱(ぼうこう)にできる癌に対する診断として「蛍光膀胱鏡による光力学的診断」を導入し、本年5月に厚生労働省先進医療専門家会議にて「第3項先進医療(高度医療)」として認められました。

メスは従来と同じものを使用しますが、蛍光膀胱鏡で観察することで、従来の膀胱鏡では見つけれなかった癌やその広がりを正確に確認しながら切除できます。

## 癌を赤く光らせて見つける診断法

本診断法は、薬剤(光感受性物質)を内服または膀胱内に注入し、その後に蛍光膀胱鏡で観察すると、癌の可能性の高い部位が赤く光って見える仕組みです。

これまで73名の患者さんに実施しました。従来の膀胱鏡による癌の切除では、手術後1年での膀胱内への再発が4割、術後5年では7割と非常に高頻度でしたが、本治療法では、膀胱内への再発は術後1年で約1割、術後5年では4割と、格段に治療成績が向上しました。

これまで152名の患者さんに実施しました。従来の膀胱鏡による癌の発見率は7~8割程度でしたが、本診断法では9割以上と高率に癌を発見できました。しかし、赤く光っていても実際には癌でない「偽陽性」の場合もあり、注意は必要です。

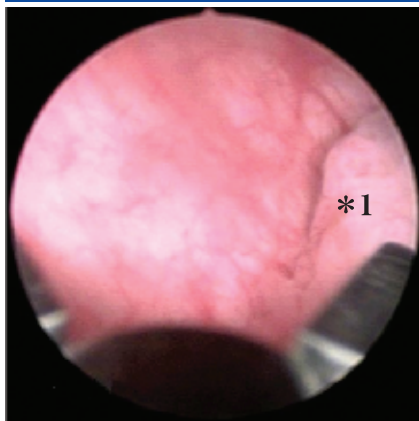
また、副作用としては、薬剤(光感受性物質)を内服した場合には、光過敏症(赤ら顔)、肝機能に関係する酵素の一過性上昇、悪心などが、一方、膀胱内注入の場合には頻尿、尿意切迫などが約1~2割の患者さんにみられましたが、ごく軽いもので安全性に問題はありませんでした。

## 赤く光らせた癌を切除する治療法

さらに本診断法を応用して、蛍光膀胱鏡で観察しながら癌の可能性の高い部位を切除する新たな治療法も行っています。本診断法は、癌を切除するためのループ型電気

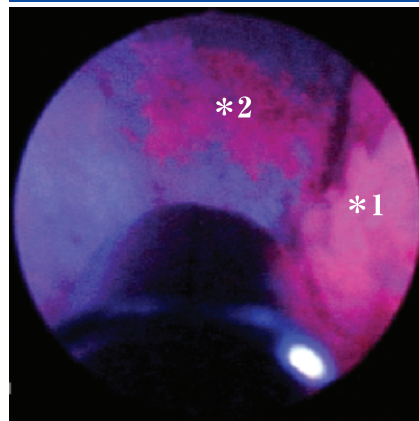
このように、膀胱癌の診断や治療において蛍光膀胱鏡を用いた光力学的診断は、安全であり、膀胱癌の術後再発を減少させることができる有用な診断方法といえます。我々泌尿器科は、今後、先進医療(高度医療)(前述)として実施しつつ、将来保険適応での一般的診断法として、みなさまの大きな利益となるように努力してまいります。

従来の膀胱鏡での観察



写真右端に、大きな膀胱癌(\*1)を認める。

蛍光膀胱鏡での観察



赤く光らせることで、大きな膀胱癌(\*1)に連続して病変が広がっている(\*2)ことが確認できる。